

茶人が愛した中国磁器の魅力は「ヘタウマ」

青花花文茶碗

景徳鎮窯

中国・明時代（16世紀末）

とある夏の午後、所用で訪ねた茶人宅で「氷点前」のもてなしを受けました。読んで字のごとく、氷の入った冷たい抹茶を頂くわけですが、茶碗を持つ手もひんやり、亭主の心配りに感激した思い出があります。今回は、そんな夏にふさわしい茶碗を紹介しましょう。

「茶碗といえば「一楽・二秋・三唐津」といわれるように土ものの陶器が珍重されてきました。わび茶の精神にかなう自然な風合いに加え、保温効果の高い土の器は手に取っても熱くありません。

一方、有田焼のような白い素地を特徴とする磁器は、薄くて硬いガラス質。繊細な造形に染付や色絵で華やかな文様を描いた作品は、世界中の人々を魅了しましたが、人工的な作風ゆえ茶人には敬遠されてきました。



▲青花花文茶碗 松井文庫所蔵

■展示案内

企画展 「夏の風物詩—妖怪絵巻・朝顔生写図巻・ガラスの器・唐金と青花—」

会期 開催中～9月29日(日)
会場 松浜軒内 松井文庫展示場
午前9時～午後5時
(入園は午後4時30分まで)

閉園日 毎週月曜日
(祝日の場合はその翌日)

観覧料 一般 500円
小中学生 250円

問合せ 松浜軒／松井文庫
☎ 33-0171

しかし例外的に、16世紀の景徳鎮(中国)民窯で焼かれた磁器や17世紀初頭の有田で焼かれた磁器は、「粗野な作風がわび茶の精神に通じる」として、我が国の茶人の間でもはやされました。今の言葉を借りるなら「ヘタウマ」の魅力でしょうか。

写真の茶碗は、松井文庫に伝来するもので、タイトルの「青花」とは、日本でいう染付の中国での呼び方、「花」は文様という意味をもちます。中国・明時代(16世紀末)の景徳鎮民窯で鉢として作られ、日本の茶人が茶碗に見立てて輸入したものです。平形の碗に伸び伸びと描かれた花文とその青さが「涼」を感じさせ、夏にふさわしい逸品です。

(市立博物館未来の森ミュージアム 学芸員 石原 浩)



2019 女子ハンドボール世界選手権大会の対戦カードが決定

	11 / 30 (土)	午後3時	モンテネグロ VS セネガル
		午後6時	ハンガリー VS カザフスタン
	12 / 1 (日)	午後3時	カザフスタン VS モンテネグロ
		午後6時	セネガル VS ルーマニア
	12 / 3 (火)	午後3時	スペイン VS セネガル
		午後7時	ルーマニア VS カザフスタン
	12 / 4 (水)	午後3時	カザフスタン VS スペイン
		午後7時	ハンガリー VS セネガル
	12 / 6 (金)	午後3時	モンテネグロ VS スペイン
		午後7時	ルーマニア VS ハンガリー

ところ 八代トヨオカ地建アリーナ (総合体育館)



11月30日(土)～12月6日(金)、本市に世界6カ国の代表選手たちが集結します。昨年行われた第17回女子ハンドボールアジア選手権に足を運んだ人も、そうでない人も新たなハンドボールの面白さがぎっと見つかります。友達や家族と観戦して熱い応援を選手たちに届けよう。

問合せ スポーツ振興課 ☎ 43-7012
2019女子ハンドボール世界選手権大会
組織委員会 ☎ 096 (333) 2583



今月の表紙

NPO 法人しらさぎによる国指定史跡八代城跡石垣清掃。普段の鉄塔整備などで培った高所作業技術を生かし、約4時間かけて除草作業を行いました。(関連記事を27ページに掲載)